



7月は冒頭に2日連続で講演会があります。希望者は早めに申し込みを！

➡ 7月2日（月）「税制について考える」講演会 ～こんな制度、どう思う？～

昨年に引き続いての開催です。税金は身近な存在ですが、その仕組みや意味についてしっかり考える機会は少ないものです。この講演会では、税の専門家に税金についてのレクチャーを受けながら、実際にグループで意見交換をしながら、税金、税制について考えていきます。講演会はとかく一方通行になりがちですが、今回は参加型のものです。去年は「ドギー税の導入」というテーマで行われました。ぜひ参加してください。

講演者プロフィール

湊 昭子先生（東京税理士会麹町支部所属）

➡ 7月3日（火）内閣官房主催 「国家公務員の出身高等学校への派遣」

～「いまを守り未来をつくる」 国家公務員 仕事紹介～

内閣人事局は、各府省と連携し、各府省の若手国家公務員を出身高等学校（母校）に派遣する事業を平成 28 年度より行っています。当該高等学校の OB・OG というより身近な視点から講演を行うことを通じ、将来を担う高校生の学習意欲の喚起、キャリア形成及び国家公務員の仕事への理解促進を図ることを目的としています。

今回は、本校を平成 20 年度に卒業された多田初様に御講演をいただきます。国家公務員として活躍されている OB の方にお話を聞けることは、進路を幅広く考えるうえでも大変貴重な機会です。積極的に参加してください。

【講演内容】

日比谷高校での思い出

- ・国家公務員を志望したきっかけ
- ・現在の仕事内容と魅力
- ・国家公務員になることを目指している生徒は、具体的に高校からどのような進路を描くべきか。

多田 初 様

【プロフィール】

上記2つの申し込みは、LL 準備室の前に申し込み票がありますので、ルーム名と名前を記入してください。締め切りは6月29日です。

➔ 6月18日(月) G10ボストン・ニューヨーク研修 1、2期生と懇談会

6月18日、今年度ボストン・ニューヨーク研修派遣予定の4期生と、すでに本校を卒業した1、2期生のみなさんとの懇談会が実現しました。忙しい大学生活の合間を縫って7名の先輩方が来校してくれました。卒業生たちがこういった形でボストン・ニューヨーク研修の生徒たちと交流するのは初めてのことです。

懇談会、とはいっても、現在4期生が苦勞してまとめている「食料問題についての提言」についての助言がメインとなりました。2グループに分かれてディスカッションし、有用な資料や、提言の方向性についてなどさまざまなことについて教えていただきました。卒業してまだ間もない先輩たちですが、資料の活用・分析がとても客観的で、慎重な視点を持ち、提言への指摘にも極めて鋭い部分がありました。大学での学びが充実していることがうかがわれます。たくさんの人たちの支援を力にして、派遣生徒には充実した提言をまとめてもらいたいと思います。

本研修1期生であり、グローバル委員会創設メンバーの一人であり初代委員長にコメントをいただきました。先輩方の当時の苦勞、そして達成感が伝わってきます。

今回、この懇談会を企画したのは私たち1期生が海外派遣研修に参加して3年がたち、この研修が今の自分を形作っていることを感じているからです。

私は、東京グローバル10海外派遣研修の第1期の研修生としてボストン・ニューヨークに行きました。研修では、「国際的な食料問題の解決」という壮大なテーマに挑み続けていました。国際的な食料問題の解決策についてプレゼンを作る上では、方向性を決めるだけで1ヶ月がすぎたりチームメイトとぶつかったり自分の知識の無さに俄然としたり、多くの葛藤・挫折がありました。それでもめげずに作り上げたプレゼンは、今見直すと実に稚拙な内容でした。現地の知識人にも厳しい指摘をいただきました。私は自分がいかに井のなかの蛙であるかを痛感しました。それでも私たちが真剣に向き合って作ったプレゼンは忘れられない大切なものです。

研修が終わって「自分にはまだまだ知らなくてはいけないことがたくさんある。」と考えるようになったことが私の進路決定、世界観、そして人生を変えてくれました。私たち、G10海外派遣研修卒業生は、この研修がそれだけ大きな力を持つことを伝えたく懇談会を開催しました。

6月はG10海外研修生にとっては「産みの苦しみ」を味わう時期です。プレゼンの方向性を決める上で、楽な道に逃げずに「真正面から」食料問題と向かい合わなくてはなりません。そういった時期に、先輩として4期生にどうしたら意見をまとめることができるのか、自分たちの意見の根底はなんなのかを一緒に考えて、彼ら彼女らがより洗練された内容を作る手伝いができればと思っています。

4期生の皆さんは事前研究や事前研修が充実していて、実際に話していても食料問題に真剣に向き合おうとしている姿勢が強く伝わって来ました。現役生らしい勢いは、私たち先輩をはるかに超える素晴らしい提言を作るのではないかと感じさせてくれました。

同じ苦惱を味わいそれを乗り越えた先輩として、4期生と活気ある交流をすることができて非常に嬉しく思います。今後も彼ら彼女らを私たち「先輩」は支えていきます。今年も素晴らしい研修になることを心より願っています。

東京グローバル10海外派遣研修1期生
グローバル委員会初代委員長